

地域	現状・問題点（仮説）	参考資料2該当箇所	
		分類	ページ
四郷 笠田 大谷 妙寺	● 中心市街地地域までの移動を担うデマンド型乗合タクシーが谷筋沿いの運行であり、利用できない地域（交通空白地）がある。	人口情報	p.1、p.5 ※今後到達圏分析を追加
	● 交通空白地において高齢者の居住がみられ、今後もこの傾向が継続する見込み。	人口情報	p.3、p.4
	● デマンド型乗合タクシーは買い物や通院の需要とダイヤが合っていない。	交通サービス、 ネットワーク情報 アンケート調査、 ヒアリング調査等	p.20、p.21 ※今後到達圏分析を追加 p.39
	● デマンド型乗合タクシーの存在が知られていない。	交通サービス、 ネットワーク情報 アンケート調査、 ヒアリング調査等	p.23 p.52
	● 妙寺・笠田地区の縁辺部ではスクールバスが使えずに保護者の送迎で通学している小学生がいる。	交通サービス、 ネットワーク情報 アンケート調査、 ヒアリング調査等	p.28、30 (ヒアリング結果整理中)
	● 高校進学に伴いスクールバスに乗れなくなり、駅まで送迎してもらう必要がある。	アンケート調査、 ヒアリング調査等	(ヒアリング結果整理中)
	● 串柿のシーズン（11月初旬～中旬）に観光客が四郷地区の生活道路へ車で来訪しており、生活を脅かしている。	アンケート調査、 ヒアリング調査等	(ヒアリング結果整理中)
	● 農産物の出荷を車で行うことが難しい人がある。	アンケート調査、 ヒアリング調査等	(ヒアリングで今後確認)
紀の川 沿い	● 駅と目的地となる施設が離れている。	地域特性情報	p.8
	● 紀の川沿いの移動（国道24号・JR）がしづらい。	交通サービス、 ネットワーク情報 アンケート調査、 ヒアリング調査等	p.11 ※今後到達圏分析を追加 (ヒアリング結果整理中)
	● 駅でJRとコミュニティバスやデマンド型乗合タクシーの接続が図られていない。	交通サービス、 ネットワーク情報	p.19
	● 駅等での他の交通手段等への案内が分かりにくい。	交通サービス、 ネットワーク情報	p.19
	● 妙寺地区ではスーパーが撤退して買い物に不便が生じている。	アンケート調査、 ヒアリング調査等	(ヒアリングで今後確認)
	● 町内の2中学校では、学校から部活の練習場所まで保護者が送迎している。	アンケート調査、 ヒアリング調査等	(ヒアリング結果整理中)
見好 三谷 天野 四邑 志賀 新城	● コミュニティバスやデマンド型乗合タクシーが谷筋沿いを運行しており、停留所まで遠いために利用できない地域（交通空白地）がある。	人口情報	p.1、p.5 ※今後到達圏分析を追加
	● 交通空白地において高齢者の居住がみられ、今後もこの傾向が継続する見込み。	人口情報	p.3、p.4
	● 観光施設周辺で公共交通が運行されておらず、公共交通でのアクセスが困難な施設がある。	地域特性情報	p.10
	● コミュニティバスのフリー乗降区間が設定されているが、案内が分かりづらい。	交通サービス、 ネットワーク情報	p.21
	● デマンド型乗合タクシーの存在が知られていない。	交通サービス、 ネットワーク情報 アンケート調査、 ヒアリング調査等	p.23 p.61
	● 住み心地の良い環境を求めて移住してきた人の子供世代が、高校進学に伴って駅まで送迎する必要が生じ、移動に苦労する場合がある。	アンケート調査、 ヒアリング調査等	(ヒアリング結果整理中)
	● 農作物の出荷を車で行うことが難しい人がある。	アンケート調査、 ヒアリング調査等	(ヒアリングで今後確認)

花園	● 中心市街地までの移動に際し、町外を経由していく必要があり、時間が	地域特性情報	p.6
	● コミュニティバスが運行しているほかにスクールバスも運行されており、重複している。	交通サービス、ネットワーク情報	p.28、30
	● ふれあいサービスが始発・終発便に対応しておらず、利用者は停留所まで送迎してもらう必要がある。	交通サービス、ネットワーク情報	p.26、27
		アンケート調査、ヒアリング調査等	(ヒアリング結果整理中)
	● 日常の通院は有田川町の病院までふれあいサービスで行けるが、紀北分院への通院は乗継が必要になるうえ、乗継も不便である	交通サービス、ネットワーク情報	p.16、17、25
	● 通学の送迎負担が重く、高校から寮生活を選ぶ人もいる。	アンケート調査、ヒアリング調査等	(ヒアリング結果整理中)
	● 社協職員がデイサービスの空き時間にふれあいサービスを運行しており、柔軟な運行が難しい場合がある。	アンケート調査、ヒアリング調査等	(ヒアリング結果整理中)
町全体	● ふれあいサービスの運行には講習受講が必要であり、運転できる人数が限られている。	アンケート調査、ヒアリング調査等	(ヒアリング結果整理中)
	● 人口は令和2年度比で40%減少すると推計されているほか、高齢化率は今後も上昇し、45%程度で高止まりすると推計されている。	人口情報	p.5
	● 通勤では町内完結の移動が多くみられる一方、通学では町外の高校に通う人（町外への移動）が多くみられる。	地域特性情報	p.9
		交通サービス、ネットワーク情報	p.28、29
	● 観光客向けの公共交通が不足しており、クルマでの来訪が多い。	地域特性情報	p.10
		アンケート調査、ヒアリング調査等	(ヒアリング結果整理中)
	● 運行の担い手（運転士、整備士等）が不足している。	アンケート調査、ヒアリング調査等	(ヒアリング結果整理中)
	● 公共交通で賄えない移動は送迎が必要となり、送迎する人・送迎してもらう人の双方に負担感がある。	アンケート調査、ヒアリング調査等	p.53、54 ※町民アンケート、高校生アンケートで追加分析予定
	● 区域運行やドアtoドアの移動ニーズがみられ、従来のデマンド型乗合タクシーの運行方法と合っていない。	アンケート調査、ヒアリング調査等	p.61 ※町民アンケートで追加分析予定
	● 施策を推進する体制が構築できていない。	アンケート調査、ヒアリング調査等	(ヒアリング結果整理中)

解決すべき課題

①公共交通軸の明確化と機能の保証

紀の川沿いのJR和歌山線、国道24号は東西幹線軸として中心市街地を形成しており、移動需要も集中していることから、中心市街地へのアクセスの利便性と回遊性を確保する必要がある。そのためには、かつらぎ町において中心市街地の利便性を維持するための必要なサービス水準等を定め、維持していくための取組が必要である。

また、花園地域との移動を確保するための南北幹線軸については、花園地域の持続可能性の観点からも維持していく必要がある。

②送迎に頼らない日常移動の確保

中山間地域を中心に交通空白地が広がっていることを踏まえ、こうした地域を解消していく取組が必要である。また、公共交通が使える地域でも、生活リズムに合ったダイヤ設定等を行うことによって、公共交通が運行している地域では公共交通を使える環境を整えていく必要がある。

現状、これらの地域では公共交通の代わりに送迎での外出が多いことから、送迎をしなくても日常生活が送れるような移動環境を構築していく必要がある。

③交通手段間・他分野間との連携・共創による需要の創出

交通手段間で乗り継ぎが不便であったり、情報が不足しているほか、他分野との連携が十分でないために、公共交通の利用者数が少ない状況である。こうしたことを踏まえ、交通手段間の連携を深めて利便性を高めていくとともに、様々な分野で公共交通を活かしていく取組を進めていく必要がある。

④交通サービス運営と施策遂行に向けた体制の強化

これまで、公共交通に関して議論する場が少なく、連携が十分でなかったと考えられることを踏まえ、交通計画の策定をきっかけとして、協議会が丸となって公共交通の利便性向上や利用促進、担い手の確保に取り組んでいく必要がある。

また、これらの施策を進めていく上で、必要となる資金も確保していく必要がある。